

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370105516		
法人名	有限会社 幸生		
事業所名	グループホーム明日香		
所在地	岡山県岡山市東区九幡44-5		
自己評価作成日	平成22年2月18日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/informatioPublic.do?JCD=3370105516&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館		
訪問調査日	平成22年3月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

スタッフ一同仲良く信頼関係が築け、病院経験者も多いのでご利用者様の健康面を常に配慮しながら、チームケアでコミュニケーションを図っています。ご利用者様の立場になって考え、真心で接する事により以前よりとても元気になられとてもうれしく思っております。又、地域の方々が毎月のように遊びに来られ、一緒に食事作りをしたり、カラオケをして楽しい時間を過ごしています。あたたかい気持ちでご利用者様の安らげる安心した生活に反映しているのだと思っております。今はゼロからのスタートですが、私達は命(心と魂)を支える仕事をしています。ご利用者様1人1人を尊敬し、尊重し訴えのできない訴えを察する事が出来るよう愛と真心で笑顔あふれるグループホーム明日香を目指し、これからも地域の方々との交流を大切に協力して頂きながらスタッフ一同頑張ってまいります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

設立して7年目に入って見違える元気なホームを見ることができました。昨年から社長の奥さんが統括管理者として初めてこのホームの一員として加わり、病院で長く看護師をしていた経験と病院経験のある知人3人とで、病院経験者と介護施設で経験した職員を合体した全く新しい体制を組み、このホームのケアとサービス事業を刷新した。利用者は年々高齢化と重度化が進み、ターミナル状態寸前の人もいたが、職員の明るさで笑顔あふれる表情で利用者に接して、心の通い合いやケア技能によって、どの利用者も人間らしい姿に回復し、食事は全員が食べられるようになり、元気で表情も豊かになり、それぞれの生きる力を甦らせることができた。見事に回復したホームになった。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、又さらに職員間でも話し合い、職員間の理念を作りチームケアができるよう、理念がケアに反映されるよう心がけています。	リビングに掲示した職員間の理念“笑顔・挨拶・誠実・思いやり”を目指し「人との付き合いにはこれが一番じゃ。私は今だにこれを守っとる」と利用者が教えてくれた。職員だけでなく利用者にも、理念が浸透している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方が毎日のように遊びに来て下さり、又畑の作物の差し入れや、利用者と一緒に野菜を作り、お花を植えてくださっています。又食事作りも一緒に手伝って下さり助かっています。	ホームの花見には地域の方がお弁当を作ってくれて、お礼に誕生会に招待したり、ゴミステーションの掃除や町内のクリーン作戦に参加し、地域住民が日常的に遊びに来る等、一軒の家として地域との付き合いができています。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	研修に参加した成果を地域推進委員会の場で報告したり、実習生の受け入れ(職場見学)も行っています。老人の十戒、職員間の理念を掲示しております。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の取り組み内容や、具体的な課題を話し合い、地域の方の理解や、支援を得ています。	町内会長や副会長の妻・民生委員・地域包括支援センター担当者・サブセンター職員・家族等が参加して、2ヶ月に1回運営推進会議を実施している。地域行事の紹介があり参加する等会議開催効果も上がっている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者と日頃から運営推進会議に参加して頂いたり、様々な機会を通じて事業所との関わりを持ち、密に連絡を取り協力関係を築く様にしています。	何かあれば市の担当者に相談し、指導・助言を受けている。地域包括支援センター担当者は運営推進会議にも参加してホームの実情をよく理解し、地域の方の避難訓練参加を提案してくれる等協力・連携できている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び全ての職員が身体拘束によって利用者に対する身体的、精神的苦痛を理解し、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいます。本人家族等と常に話し合い、本人の思いや身体力を活かしながら、安全にすごせる工夫をかさねています。	身体拘束をしないケアのマニュアルを作成して、車イスからの転落・転倒防止の為に安全ベルト等についても検討し、自分がされたら嫌な事はしないようにしようと職員ミーティングでも話し合った。行き届いた見守りで玄関施錠もなかった。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者と職員は、高齢者虐待防止関連法の理解を図り、潜在する危険のある職員による虐待を徹底的に防止しなければならないと思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者と職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度を学び、必要と考えられる利用者が活用できるよう話し合い、情報を提供するよう、支援している。当事業所でも1人利用者が該当しますので、継続的に支援しています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や契約解除の際、利用中の料金改定等、利用者や家族等にとって契約内容について分かりにくかったり、不安や疑問が生じないか利用者の立場に立って確認し、十分な説明を行い、理解、納得を図っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には手紙や訪問時、常に問いかけ何でも相談してもらえそうな雰囲気づくりに留意している。出された意見、要望等は職員間で話し合い反映させている。	ホームのたよりを発行して様子を伝え、必要に応じて家族と相談している。本人の体調に配慮しながらできるだけリビングに出して欲しいとの家族の要望を取り入れ、食事やおやつを皆と一緒に食べる事で状態が良くなった人もいます。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者は常に職員とコミュニケーションを図り、職員の要望や意見を聞くように心がけ反映させています。	毎月定期的に行う職員ミーティングには、よほどの事がない限り全職員が出席して活発に意見交換している。代表者と職員は思いを共有し、チームワークもよく、よい事はどんどん取り入れ、上を目指そうとする気運が高まっている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、職員が向上心を持って働ける様働きかけています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員育成の重要性を認識し、事業所外で開催される研修にはなるべく多くの職員が受講できるようにしている。全ての職員が質を向上させていけるよう、新人職員に対してもケアの技術面だけでなく、利用者との関わり方について指導を実施している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームへの見学、職場内では行き詰っている仕事の悩みの解消など事業所外の人材の意見や経験をケアに活かし、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心と信頼に向けた関係づくりと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人が苦しんでいること、困っていることを把握し、本人がいま何を求め、何が大切なのかその人をする事、気付きを発見し、安心を確保するための関係づくりに努めています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを提供する際、家族が不安な事、困っている事、希望等話合いの場を持ち信頼関係を大切にしています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの利用を開始する際、本人、家族が最も必要とされている支援を見極め又、他のサービス利用も含めた対応をしています。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフはチームケアで動き、利用者の立場になって常に考えています。共感と受容は信頼を築き、利用者と共に悩み共に笑う、共に生きていく関係を大切にしています。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	スタッフは本人と家族の関係を大切にし家族とスタッフで共に本人の思いを大切にしながら、支援できるよう信頼関係を大切にしています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が今でも大切にしてきた馴染みの人や場所との関係がたもたれるよう支援しています。	馴染みの散髪屋に行ったり、編み物や書道等その人の趣味を活かして作品を掲示する等の支援を行っている。家族と墓参りに行くのを楽しみにしている人や、お茶やお花・着物の着付け教室の免状を部屋に掲げる人もいた。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の1人1人の性格等を知る事により利用者同士の関係を把握し1人1人の世界と気持ちを大切に利用者同士が支え合っていけるような支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了しても今までの信頼関係を大切に、本人家族の経過、みまもりながら相談、支援する事を大切にしています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の気持ちに寄り添いながらどのような暮らし方を希望され、意向の把握に努力しています。困難な時は本人本位に検討しています。	「巻き寿司おかわりちょうだい」と遠慮なくリクエストする人や、「こないだは茶色にした。今度は紫色のにしようか」と髪の毛を染める色を思案するオシャレな人もいた。利用者達はこうした気持ちをはっきり伝えていた。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	1人1人の生活歴、身体状況、暮らし方生活環境、これまでのサービス利用についての情報の把握に努めています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の一日の過ごし方、身体状態、残された機能の把握に努め自律支援できるよう努めています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がよりその人らしさが表現できる安心した環境で暮らす為の課題と自立した生活の実現を支援できるよう本人家族とコミュニケーションを図り、チームケアによりアイデアを反映し現状に即した介護計画を作成しています。	本人・家族から管理者・計画作成担当者がよく話を聞いて情報を職員に伝え、担当職員を中心に全員で相談してプランを作成し、様子を見ながら検証している。全員で意見を出し合い計画作成する体制を確立したいと考えている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の日々過されている状況、様子に気づき対応結果を介護記録に個別に記入しスタッフ間で情報収集に努め、状況の変化等により介護計画の見直しに取り組んでいます。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の健康状態などにより、本人家族の状況に応じて通院送迎等必要な支援は対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	1人1人の暮らしを支えている地域資源を把握し1人1人が持っている力を発揮し安全で豊かな生活を楽しむことができるような自立した生活の実現を支援しています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人及び家族の希望を大切にしています。身体上の症状により、適切な医療を受けられるよう取り組んでいます。	受診は基本的には家族にお願いしているが、家族の都合がつかぬ場合や緊急時にはホームでも受診支援を行っているため、それぞれの利用者のかかりつけ医との関係は構築できている。ホームの協力医も確保している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は日々の生活の中で情報や気づきをスタッフ間で話し合い必要性があれば、常に連絡を取っている。利用者が適切な受信、看護を受けられるよう支援しています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院された際安心して治療する事が出来るようになるべく早期に退院ができるよう、家族の方の希望相談を受けながら、病院関係者とも日頃より信頼関係を大切に、情報交換に努めています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体状況が重度化した時、又週末期のあり方については、早期より本人、家族の思いを大切に話し合いをしております。事業所で出来る事、方針を十分に説明し納得して頂いております。又、地域の関係者と共にチームケアで支援させて頂いております。	療養型医療施設で長年勤務し、ターミナル経験豊富な看護師や職員がいるので、本人・家族の希望があり、医療的な問題もなければ、できる限りターミナル支援をしたいと考えている。最期までホームでその人らしく楽しく明るく過ごして欲しいと思っている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の身体の急変や事故発生時に備え、スタッフ一同応急手当、初期対応の訓練を定期的に行い実践力を身につけています。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を経て避難訓練、避難経路の確認を定期的に行っています。	災害時のマニュアルや緊急連絡網を作成し、利用者も参加して年2回避難訓練を実施した。ホームは地域との付き合いがよくできており、何かあれば助けて貰える近所の人もある。今後は地域の人も参加した避難訓練をしたいと考えている。	ホームは地域の人への避難訓練参加を検討している。いざという時の地域との連携は非常に重要である。とてもいい事だと思うので是非実現して欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねない言葉かけが出来るようさりげないケアを心がけたり自己決定しやすい言葉かけをするように努めています。	食後「お腹いっぱいになった？」と職員に声かけられて「食べようと思うても何も無いが」と食べた事を忘れて答える人がいたが「じゃ、これたべといて」と言われておかわりの巻き寿司を貰って笑顔。その人の気持ちを尊重した自然な対応ができていた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせた声かけをし意志表示が困難な方には表情や対応を注意深くキャッチしながら食べたいメニューなど些細な事でも本人が決める場面を作っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合によるスケジュールに利用者の生活を合わせるのではなく1人1人の体調に配慮しながらその日その時の本人の気持ちを尊重して出来るだけ個別性のある支援を行っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のこだわっているスタイル(帽子など)を把握しその人らしさを保てるようなお手伝いをしています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	片付け等も利用者と共にいたり職員と利用者が同じテーブルを囲み楽しく食事ができるよう雰囲気作りも大切にしています。	小さく切る等その人の状態に合わせて食べ易く支援した食事を「大勢いで食べると美味しいなあ」と皆で談笑しながら食べていた。利用者達は食欲旺盛で、重度化している人も時間をかけて自分で箸を使ってマイペースでよく食べていた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人人の体調と一日の摂取量を把握している。個別に主治医より高カロリー補食品を出してもらっている方もいる。1人1人の状態合わせ食べやすくなるよう色々な工夫をしています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状態に合わせて食後は洗面所に行って頂く。出来ない方に関しては毎食後のケアを行い嚥下障害による肺炎防止などに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心に配慮し利用者の様子から敏感に察知し身体機能に応じて手を差し伸べたり歩行介助をしています。トイレでの排せつを大切にしながら、紙パンツ、パット類も本人に合わせ利用しています。	各自の排泄パターンを把握し、タイミングをみて声をかけトイレ誘導できていた。毎日起床時には陰部洗浄を実施し、感染予防に努め効果を上げている。各居室にトイレがあるので失禁時も安心だ。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録し便秘の方にはバナナやサツマイモ等繊維質の多い食材を提供しています。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1人1人の入浴のタイミングに合わせて入浴を楽しめるよう安全な入浴、体調の改善入浴を拒む人に対しても、言葉かけや対応の工夫、チームプレーによって1人1人に合わせた入浴支援を行っています。	体調に問題なければ、夏場には2日に一度・冬場には3日に一度の入浴支援を行っている。入浴拒否の場合も無理強いせずに、タイミングをずらせたり人を替えて声をかけその気になる様誘っている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1日の流れの中で1人1人の疲れ具合、体調や表情、希望等を考慮してゆっくり休息がとれるように支援しています。眠れない利用者に対してその本人のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズム作りに努めています。寝付けない時には温かい飲み物を飲みながら水分補給に気をつけ、ゆっくりお話ししたり不安を取り除ける様配慮をしています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人1人が服用する薬の目的や副作用、用法用量について理解し、飲み忘れや誤薬を防ぐための取組をしています。利用者の薬の処方効能副作用の説明をファイルに保管し、全職員に分かるよう徹底している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の暮らしが楽しみや張り合いのあるものになるよう自分らしく暮らせる様庭木の水やりや、洗濯物をたたんでもらったり、雑巾を縫って頂いたり役割を持って頂いております。地域の方の協力で一緒にお花を植えたり、野菜を作ったり利用者の方の経験体で覚えこんだ記憶を大切に、本人が生きることへの支援につながるよう地域の方、スタッフと共に喜びのある日々を過ごせるよう支援しています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換やストレスの発散の為もあり短時間ですが、散歩したり、車椅子の方も同様戸外へ出て季節感を感じ利用者の方とコミュニケーションを図っています。	恵まれた環境を活かしてホーム周辺を散歩したり、初詣・花見等季節の行楽や、秋祭り等地域行事にも出かけている。家族の協力を得て、面会に来た家族と外出して上機嫌で帰ってきた人もいた。	時には買い物等個別支援でちょっとそこまでドライブを兼ねて出かけるのも楽しそう。家族と外出できる人はいいが、そうでない人もいるので、負担にならぬやり方を検討してみてもいいだろう。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員ホームでお金を管理しています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人にスタッフを通じ電話をしたり支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂は全てが視野に入りやすくしています。ソファをおいて、落ち着いてくつろげるスペースづくりに取り組んでいます。利用者同士の関係性等に配慮した共有の空間やゆったりと過ごせるよう各部屋個室(トイレ有)になっています。自尊心に配慮しプライバシーが守られる様な支援を行っています。	手作りカレンダーや貼り絵共同作品、季節の花を飾り、親しみやすい雰囲気が漂っている。ウッドデッキのベランダからの眺めもよく、畳ベンチや長ソファ等居場所も多い。犬好きな人は職員の連れてきた犬に目を細めていた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間が利用者にとって不快や混乱を招くような刺激がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて暮らしの場を整えていくことに配慮しています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人や家族と相談しながら使い慣れたものや好みのものを活かして本人が居心地よく過ごせるような工夫をしています。	各居室にナースコール・洗面所・トイレが完備し、窓からの陽差しも心地良く明るい感じがする。自宅の表札・家族の写真・塗り絵作品等を飾る人や、仏壇・神棚・テレビ・タンス・イス等を持ち込む人もいて、その人らしい居室になっていた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は1人1人のできる事や分かる事を活かして安全かつ出来るだけ自立した生活が送れるよう工夫しています。		